



メロンえそ斑点病回避対策－臭化メチル廃止に向けて－

環境部病虫科 三上 哲壮

臭化メチルは農業用土壌消毒剤として、その優れた効果、利便性から広く利用されてきました。しかし、オゾン層を破壊する物質として、2005年から使用禁止となることが決まり、すでに1991年の使用量を基準として、現在は50%の削減段階となっています。

メロンにおいては、つる割病、黒点根腐病、えそ斑点病やセンチュウ類の防除薬剤として本剤が使用されてきました。つる割病、黒点根腐病やセンチュウ類の代替防除技術としては、抵抗性品種、抵抗性台木および既存の土壌消毒剤の適用によりほぼ対処できます。

しかし、えそ斑点病については、これまで熱水や蒸気消毒法及び代替薬剤の試験をしてきましたが、現在までの結果では効果が不安定でした。

そこで、抵抗性台木を用いた接ぎ木栽培や市販される抵抗性品種の防除効果や果実品質などを検討しました。その結果、本県の中心

品種であるアールスナイト夏系2号については、抵抗性台木品種（ニューメロン、Perlita、PMR5）を用いた接ぎ木栽培の実用性を確認し、また、自根栽培用の抵抗性品種（アーネスト、エイネア）も商品性が高いと判断できました。

今後も環境保全型を柱にした防除技術の検討をしていきます。



図1 えそ斑点病抵抗性メロン2品種
(左：アーネスト、右：エイネア)

表1 抵抗性台木を用いた栽培、抵抗性品種のえそ斑点病発病抑制効果及び果実品質

試 験 区	供試株数 (株)	初発時期 (定植後日数)	発病株率 (%)	発病葉率 (%)	発 病 度	果 肉 質										
						着果 節位	1果重 (kg)	ネット 総合評価	肉厚 (mm)	糖度 (Brix)	硬 度	繊 維	発 酵	酸 味	苦 味	香 り
ニューメロン(台木品種)	8.5	60	22.2	3.5	1.8											
アーネスト(抵抗性品種)	30.5	82	2.3	0.2	0.01											
エイネア(")	30.0	-	0	0	0											
対 照(穂木自根)	21.5	55.5	71.7	12.9	4.2											

注：定植5月6日、交配中心6月10日、収穫8月4～7日。

供試穂木品種 アールスナイト夏系2号。

発病度 0(発病無)～100(枯死)。

数字は平均値、果実品質は10果実の平均。

ネット、果肉質評価：数字が大きいほど高い(強い)。